Vol.180

市史編纂（さん）だより

わがまち歴史散歩

市史編纂の今

市史編纂。何やら難しそうな言葉ですが、市の歴史を後世に伝えるために資料を集め、市史という本を作る仕事です。

最初の『池田市史』を刊行してから、約40年後の平成5（1993）年から大々的な改訂に取り組み、同28年までに新たに『新修 池田市史』6冊と史料編2冊を刊行しました。この平成の改訂にあたり、本格的な資料調査を実施。市内はもとより近隣自治体、遠くは東京まで調査に赴き、膨大な資料を集めました。

令和7（2025）年度からは、歴史民俗資料館に業務を移管しましたが、今、市史編纂では、どのようなことに取り組んでいるのか、紹介します。

資料の収集と整理

まず大きな仕事は資料の収集と保存・継承です。市史編纂事業の肝といってもよいでしょう。資料がなければ、将来、子どもたちが生まれ育ったまちのことを知ろうとしても、その歴史を振り返ることはできません。そのため、資料をこつこつとこれからも集め、後世に残していく必要があります。

こうして集めた膨大な資料ですが、それらの整理のためには、資料を1点ずつ確認しながら、リストを作っていかなければなりません。これは、実は、とてつもなく大変な作業なのです。ですが、将来池田の歴史をひもとく資料として活用できるよう、整理を進めているところです。

資料って？

ところで、皆さんは、収集する貴重な資料と聞くと、どのようなものを想像されるでしょうか。江戸時代の庄屋さんだったお宅に残された古文書や明治時代の古～い資料…。実際にはそうしたものはごく一部。調査が進んだ現在、江戸時代にさかのぼる新たな資料にお目にかかることはずいぶん少なくなってきました。

現在収集している資料には、昭和時代以降のものも多く含まれています。平成、さらには令和現在の出来事を語る資料も、いずれ歴史資料になるのです。

最近は、デジタル化された資料しかないということも増えてきました。古い紙などの資料の手触りや匂い、何よりも「モノ」があるという安心感に慣れ親しんできた身としては、少し寂しい気もします。

デジタル化で、いろいろな情報が手に入りやすくなった一方、見落としたり消去されたりしやすくなるなど、資料の収集は、大きな転換期を迎えていると感じます。



資料調査で発見した、村人にお触れを知らせた江戸時代の高札。よくぞ250年以上も残ってくれていました！資料がデジタル化された将来は、こんな感動は味わえないかも。

情報の発信

せっかく進めた調査の成果を、より広く皆さんに知ってもらうための情報発信も大切な仕事の一つです。この「わがまち歴史散歩」の連載や、写真パネル展、中央公民館と連携した歴史講座などを開催しています。

こうした市史編纂事業を支える仕組みとして、池田市史編纂委員会という審議会があります。さまざまな歴史の専門分野の委員にお集まりいただき、事業の内容などを審議、提案いただいています。また、「わがまち歴史散歩」の執筆や、歴史講座の講師を務めていただくなど、多大な協力をいただきながら、より充実した内容で情報をお届けできるよう取り組んでいます。

市史編纂のこれから

昭和27（1952）年から市史編纂事業が始まって70年以上。近年の活字離れの中で、今までの『池田市史』の弱点は少し分厚くてとっつきにくいところ。そこで、池田の歴史をコンパクトに紹介する方法がないか、今、考えているところです。

今後は、歴史民俗資料館のさまざまな館蔵品とともに、積極的に市の歴史を紹介していきますので、どうぞご期待ください。

※『新修 池田市史』1～5・別巻、『池田市史』史料編⑩⑪販売中です。

問合 歴史民俗資料館 ☎751・3019